

■昨年に続き、ブルーの露出度が高い。ブルー～インディゴブルー～ターコイズブルーと、様々なブルーを見ることが出来た。その他としては、力を感じるカラーが多くなってきている。モノトーンとチャコールプラス、少し色褪せた雰囲気のアッシュカラー・ベリーカラーなどがあげられる。どのカラーも自然を意識したイメージに仕上げている様に感じる。

爽やかなブルー～ターコイズブルーのバリエーション

昨年に続きブルーの、バリエーションの広がりが多い。昨年よりも爽やかで軽快なイメージのブルーが多く、稀稀に胡濁なカラーで構成されている。



ニュアンスのあるアッシュカラー

グレーかかった色が、ボリュームとして見えてきている。今までも多少はあったカラーリングだが、今回は増加した様で露出度が高くなった。洗いざらし感のあるクオリティにのっているケースが多く感じられる。



継続のモノトーン

昨年に引き続きモノトーンが多い。昨年との違いは、多少グレー味が強くなり、チャコールグレーのイメージが強い色が増えてきている。ハッキリしているよりも、ニュアンスのあるグレーが今年の雰囲気。



チャコールプラス

チャコールグレーにプライトカラーを、組み合わせるコンビネーションが新しい。カラーを積極的に使用し、輪廓に見ている。アンティーク風な壁材のチャコールグレーとカラフルな家具との組み合わせは、特に新鮮に感じる。



ベリーカラー

レッド～ピンクをメインに柑橘系のカラーをプラスした色合いが、昨年に引き続き多く見受けられる。昨年との違いは、パープルやバイオレット系が、コンビネーションカラーとして使われているケースが減っている。



■今回のM&Oのテキスタイルでは、ウール&獣毛とリネンが注目素材として上げられる。手法では、キルトや刺し子の様に凹凸があり膨らみのある物がとても多くなった様に思う。全体的に優しいイメージのする物に注目が集まっている様に感じる。

ウール&獣毛素材

アイテムとしては、日本同様、ひざ掛けやケット類の展示が増えて来ている。素材は、ウールや獣毛が多く織り素材とニット素材が大半かと思う。その他フェルトにも注目したい。



リネン素材

様々なブランドでリネン素材を、見る事が出来る。少し洗いざらし感のあり仕上げが、主流となっている。



キルト・刺し子などの柔らかい凹凸感

優しい膨らみのある、キルトや刺し子などの凹凸感のある手法が多くなった。壁面でも多く提案されている所が、今年らしい部分だと思う。



ユーズド感

経年変化を感じさせる、錆の表現や削れた表現が新鮮。ファブリック以外のアイテムで多く見る事が出来る。



パッチワークのバリエーション

数年前より出てきている、パッチワークラグがすっかり定番化したようだ。アンティーク風なパッチワークが、近年の傾向となっている。



プリーツ&シワ加工

細かいプリーツやシワ加工が、今年は多かった。繊細さが伴った物が多い様に感じる。



ニット

マシーンニットの粗ゲージタイプが、ディスプレイに使われるケースが見受けられた。昨年までのざっくり手編みもまだまだ多い。



手作り感

3年前程より注目の手作り感のあるタイプは、今年も健在。手作りのぬくもりを伝える事が出来るテクニクは、空間演出に於いて、これからも重要なポイントになると思う。

